

平成 30 年度 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)第 5 回会議要録

- 1 開催日時
平成 31 年 3 月 15 日(金)午後 2 時 00 分～3 時 30 分
- 2 開催場所
練馬区役所東庁舎 7 階 702 会議室
- 3 出席者
委員長 健康部長
副委員長 健康部健康推進課長
委員 市川委員、荒井委員、橋本委員、今給黎委員、増子委員、谷口委員、戸田委員、粕谷委員代理(園畑)、井上委員、若山委員、山田委員
幹事 大泉保健相談所長、都市農業課農業振興係長、保健給食課学校給食係長、生活衛生課食品衛生担当係長、健康推進課健康づくり係長、健康推進課歯科保健担当主査
事務局職員 健康推進課栄養指導担当係 2 名、石神井保健相談所栄養担当係主査
欠席委員 坂本委員、赤井委員、木川委員
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者数 0 名
- 6 配付資料
資料 1-1 練馬区食育推進ネットワーク会議構成員(第 6 期)
資料 1-2 練馬区食育推進ネットワーク会議第 6 期の活動報告
資料 1-3 平成 30 年度食育推進事業報告書(第 21 回 JA 東京あおば農業祭)
資料 1-4 平成 30 年度食育推進事業実施録(食育推進講演会)
資料 1-5 食育推進ボランティア活動について
資料 2-1 若い世代の取り組みについて
資料 2-2 ねりまの食育応援店活動報告
資料 3 (仮称)ねりま食育サミット企画案について
- 7 平成 30 年度 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)第 3 回
(1) 開会
(委員長)平成 30 年度練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)を開催いたします。
本日は、坂本委員、木川委員より欠席の連絡を頂いております。区の幹事でも代理出席や欠席をしている者がおりますけれども、よろしく願いいたします。それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきたいと思っております。
まず、練馬区食育推進ネットワーク会議第 6 期の活動報告につきまして、案件の 1 の(ア)、(イ)につきまして資料 1-1、1-2 について事務局から説明をいた

だきます。

(事務局) (資料1-1、1-2の説明)

(委員長) 皆様にもご協力いただきまして、6期の一年目、二年目と活動を充実させることができました。本当にありがとうございました。個別にご説明する内容もございますので、報告後皆様からご意見いただければと思います。では、次に今年度の活動でまだ皆様に結果の報告をしていないものにつきましてご報告をさせていただきます。まず、案件の(1)のウについて、JA東京あおばのご協力により、農業祭に食育推進ネットワーク会議として出展をさせていただきましたので事務局より報告をさせていただきます。資料の1-3をご覧ください。

(事務局) (資料1-3の説明)

(委員長) 資料2枚目にグラフを付けさせていただいておりますが、1日に野菜料理を5皿以上食べている人が、年代や男女で比べられますが、やはり、年代が上がる方が野菜料理を食べている人が多く、女性のほうが野菜を摂っている。こういう結果もふまえて、今後食育を考えていければと思います。重ねてJA東京あおば様にはお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

それでは続きまして、案件(1)のエ、資料1-4の食育推進講演会の報告をさせていただきます。

(事務局) (資料1-4の報告)

(委員長) 資料の最後に個別のご感想を全部まとめていただいておりますが、皆様いろいろな事をお感じになっているということが見てとれると思いますので、お時間のある時にでも読んでいただくと大変ありがたいなと思っております。委員の皆様にはさまざまな形でご協力いただきまして本当にありがとうございました。やはり、食育ということで、区の中で、トータルで取り組んでいくということが必要だなと感じております。今回教育委員会にもご協力いただいたというのはとても良かったと思っておりますので、今後も今回の経験を活かしていきたいなと思っております。それでは次に案件(1)オの食育推進ボランティアの活動について資料1-5の報告をさせていただきます。

(事務局) (資料1-5の報告)

(委員長) かけ足で第6期の活動報告をまとめてさせていただきました。その中で、色々な事業がございましたので、それぞれについてのご意見を頂戴できればと思います。活動全般についてでも結構ですし、それぞれの事業活動についてでも結構ですので、何かご意見等ございましたら頂戴できればと思うのですがいかがでしょうか。農業祭の方にはご協力いただいた委員の方より、何かご感想がありましたらと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員) 17日の土曜日の午前中に参加させていただいて、若い世代にということだったので、私は健康管理アプリのダウンロードできるカードを持って参加させてい

いただきました。スマホをお持ちの方もそれなりにいらっしゃったので、渡して、是非ダウンロードしてくださいと伝えることが出来たので、若い世代には告知が出来たと思います。

(委員) 豆つかみゲームは、親子連れの方がやっぱり多いので、ゲーム後、アンケートに協力をしてもらい、野菜摂取の説明をしていたのですが、私自身が野菜の食品サンプルをいくつか持って、目の前で、「これで何グラム摂れるのですよ」ということをお伝えしたら、野菜を摂ることが、結構ハードルが低いように感じていらっしゃる方が多くいました。「これだけでもいいのですね。」っていう反響が大きかったので、ビジュアル的に訴えるっていうことは、もっと積極的にやったほうが、若い世代のハードルも下がるのではないかなということを実感しました。

(委員) 野菜の食品サンプルはすごくよかった。同じなのですが、豆つかみゲームの音楽に誘われて、毎年いらっしゃっている方がいて、去年もおばさんと会ったとか、話をしたとか言われることがありました。その後ご家族の方も気軽に入ってきてくださって、野菜の話もしたし、箸の持ち方やお箸の長さなど、紙を配って説明することができたので、すごく喜んで持ち帰ってくださいました。後、野菜の量も、自分が食べている量は、ちゃん摂れているのだからということがすごく喜ばれていたの、食品サンプルは印象に残って良かったと思う。

(委員) 毎年豆つかみゲームの方を担当させていただいていたのですが、今回は初めて野菜の摂取量調査を担当させていただきました。アンケートの結果に表れているように、やはり年齢があがるごとに、非常に野菜を摂らなきゃという気持ちが強いということが、顕著に表れているなど感じました。また、食育推進講演会は私自身も有意義な一日を過ごしました。

(委員長) ありがとうございます。屋外のイベントは天候に左右されますけれども、今年は幸いなことにまあまあ良かったので、お蔭様で本当に多くの方がご来場されていたので、大変良い機会になったなど感じております。ご協力いただいた皆様ありがとうございます。それでは次に食育推進講演会につきましても委員の皆様にもご出席いただいていると思いますし、ボランティアのご報告をしていただいた委員もごぞいます。こちらにつきましても何かご感想などがありましたらお願いします。

(委員) 私自身は、竹下先生の講演に感動しました。アンケートも非常に熱心に皆さん書き込んでいて、全体としていい構成の講演会だったなど。バランスがいいなど。

(委員長) 他にもご出席いただいた委員の方いらっしゃれば、お願いします。

(委員) 昨年の土井先生と比べて、竹下先生のお名前をご存じな方が少なかったのかもしれませんが、内容的にはととても良かったです。子どもの幼少期から大人になるまで追っていて、その紹介もあつたりと、久しぶりに胸を打たれる講演会でした。お弁当の大切さとか、それから子供達の成長で、自分で作ったお弁当を食べ

た子は、必ず大きくなってもお弁当を楽しく作っているということを知って、涙ありそして笑いありのとっても良い講演で、練馬区の方にもっともっと竹下先生のことを知っていただきたいなとすごく思いました。

(委員) 非常に具体的で良かったと思います。私事ですが、ちっちゃい時に柿の皮をむきなさい。一本でむきなさい。一直線に。で、厚いのはもったいないから、細く長くむくのを覚えました。自転車と同じで一回乗り始めると、ずっと覚えている。豆のつまみ方、それからお弁当の作り方、実際一回覚えるともうそのまま覚えている。ということで、小さいときから実践を通してやることは非常にいいと思います。それからもうひとつ、土井先生なんかの話でも有名人がお話すると、同じことを言っても、全然違うのです。ですから、給食なんかでも積極的に給食の甲子園での優勝を狙うとか、努力する必要があるのではないかと。文京区の青柳小学校の先生でも、給食の先生が東京産の給食を作るという事で、江戸野菜を一生懸命集めて、そのひとつとして練馬産のはちみつも持っていかれて、給食をつくられて、それで優勝しました。そうするとその先生は有名人になって、講談社から本を出される、ひっぱりだこになる、ということがあるので、練馬区の地位向上、イメージ向上のためには、地道な行動と合わせて、一方では全国受けがするような行動も必要じゃないかなと思っております。

(委員) 私も講演会に参加しました。アンケートの中の70代以上の9人のうちの一人です。前の方で聞かせていただきましたが、竹下先生を選んだのは大変素晴らしいと思いますね。竹下先生のお話は大変分かりやすく、スライドを見せたり、それから動画を見せたり、そういう中で世代を3世代くらい、ずーっと見せていくのですね。私はお弁当というのは、小さいころ母親から作ってもらっていましたが、それを思い出しながら見ていたけど、小さいころのお弁当を作ったことが、自分が子どもを産んで、また子どもがお弁当を作る。そしてそれがまた次ということで、親子での経験が連続してつながっていくということに、感激いたしました。やはり日本の文化というのは、食の中に、そういう連続性のものがあるっていうことを、2時間ほどだったのですが、よく聞かせていただきました。その後の栄養士の発表は、ちょっと聞けなくなっちゃって申し訳なかったのですが、こういう方を選んだという事務局に、大変感謝申し上げまして、たぶん参加者も大変喜んでいただいていたのではないかなと思います。

(委員長) どうもありがとうございます。若い人たちにも多く参加していただいて、保育の方もたくさんの方にご利用いただいたりして、お子さん連れで来られた方もいらっしゃいました。出来るだけ息の長い取り組みとしていければと良いと思っておりますので、皆様からもご意見頂戴しながら進めていければと思っております。ありがとうございました。

続きまして、食育推進ボランティアの活動についてということで、今年はまだ

んと広がりを持っていてということで、色々取り組んでまいりました。事業にもご協力していただいておりますが、そちらにつきましてはご意見あれば頂戴できればなと思っております。

(事務局) 児童館で若い母親、保護者を対象にやらせていただいた時、職員もボランティアと同じ服装をして参加しているのですが、なぜかボランティアのところには、どの施設に行っても質問が来る。若いお母さま方が「お米ってどうやってとぐのですか。」聞きに行くのです。職員も同じ服装をしていて、そんなに固いイメージはないと思うのですが、職員には聞かない。みたいなところがあり、地域のボランティアの力を借りるっていうのはすごく大きいことだなと感じますよ。お子さんを背負ったお母さんが一緒に調理をしている横で、2歳くらいの子がキャベツをちぎって、世代で調理をするっていう経験が家庭ではないけどできるっていうのがすごいいい取り組みだったなと思いました。

(委員) 家庭がそのまま児童館に移動したという感じで、やっぱり子どもも、ちょっと調理の仕方がわからないママさんも、人のマネから入るじゃないですか。みんなで見ながらそのマネをするというのは、すごく楽しくも出来るし、覚えも早いかなと、いい食育活動だと思いました。私の方に来たのはたぶん私がペラペラしゃべっているからだと思います。

(事務局) 他に3か所ほどやりましたが、やはり皆さんボランティアさんの方へなぜか行かれるっていうのが、職員って書いてないんですけど、わかってしまうっていうのが不思議なところでした。ボランティアさんの力で、近所の方が教えてくださるっていうのはすごくいいことだと思いました。

(委員長) また、子ども食堂の集まりに行って「ちゃんとごはん」のお話をしたことによって、活動の輪が広がったりというようなこともありましたし、JAさんに食材のご協力をいただいたり、清掃リサイクル課の方からフードドライブで集めたものを提供してもらうということで、活動の意義というか、そういうものが浸透してきていると大変ありがたく思っております。JAより野菜をいただいた写真を後で回しますので、ご覧いただければと思います。

(事務局) こどもの写真は撮影できないということで、写っていないのが残念ですが、いただいたお野菜がすごい量だったのです。予定量よりたくさんいただいたのではないかなと思うのですが、出来上がりの味噌汁の写真は実は半分の量なのです。たくさん作っていたのですが、運営委員さんとお話をしている間に全部なくなっていたので、あ、大人の方が食べたのだな、と思ったら子ども達が全部食べてしまったそうなのです。もうすごい勢いで食べた。練馬大根、切るのは固かったけど、煮ると柔らかいのだね。葉っぱも少なく思えたけど、それもゆでたら葉っぱって結構食べられるのだね。みたいなことを言いながら食べていました。すごい感想がひとつあって、野菜の感想ではないのですが、お出汁をとった昆布やかťお節

を佃煮にみたいにしました。そしたら、昆布と鰹は二度おいしいという感想がありました。食育をさせていただく題材をいっぱいいただいて、食育も広がり、子どもたちにも経験させてあげられることが広がって、感謝しかありません。写真は裏表で見にくい写真なのですが、回させていただきます。練馬の切干大根も頂いたのですが、「ちゃんごはん」では材料を先に周知してアレルギーチェックをしていただく関係で、子どもたちに食べさせることはできなかったのですが、食育として切干大根というのは、この大根を干した大根なのだよというのを伝えさせていただきました。そして、他の取り組みのところで、切干大根の方は使わせていただくようにしました。ありがとうございました。

(委員長) ありがとうございました。皆様からご協力いただきながら、事業を進めることができましたし、様々なご意見もいただき、本当にありがとうございました。改めてお礼申し上げたいと思います。それでは続きまして、案件の2の食育推進ネットワーク会議の部会活動についてご報告させていただきます。まず(ア)の若い世代部会の方から資料2-1の説明をお願いします。

(事務局) (資料2-1の説明)

(委員長) 今の報告へのご質問、ご意見ございますでしょうか。

では、部会の委員の皆様にも一言ずつお話を頂ければと思います。

(委員) 盆マルシェでは、思った以上に暑い中で、冷茶が美味しくいただけたというのは良かった。思った以上のお客さんで、本当はもっと食育のお話をプラスアルファで出来れば良かったのですけれど、そこは次回以降の課題にしていければ。日本茶の美味しさと食育とを進めるのは、なかなか一石二鳥的にならないと思うのですが、試行錯誤しながら、進めていかなければいけないと思います。是非継続していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(委員) 若い世代との関わりは、すごく広がってきたと思います。若いお母さんとの関わりでも、子どもがきゅうりやキャベツをちぎったりなど小さくてもお手伝いできる、ということをお母さんが発見するなど、体験をどんどん作ってあげることが、私たちにできることかなと思いました。ちゃんごはん事業というのは、食の自立と同時に、最後にボランティアと一緒に食事をする時間で、何か子どもたちが伝えたいことも聞けますし、それをわかってあげられる、ということもすごく大切だなと感じています。食べるだけじゃなくて、子ども達に少しでも寄り添うことができるというのが、とても大切で、私がやっていてやりがいのあるものでした。

(委員) 実際にネットワーク会議で出た事を形にされていて、実行されていることがすごいと思っています。区内大学の学園祭などでも、この豆つかみゲームを利用して、アンケート型で野菜の摂取量調査ができたなら、自分たちが野菜を摂取出来ない危機感を自覚出来たりもするかなと思います。大学生は自分の食生活に問

題があることを自覚出来ていないと思うので、実態を知り危機感を覚えさせる
じゃないですけど、そういったアプローチもあってもいいのかなという風に思
いました。

(委員) 区内大学の話が出ましたけど、今その大学では、所沢校舎の学部が江古田に来た。
そうすると食堂が足りない。街のお店も出店に行ったりとごちゃごちゃの状況
です。ここで、食育をしていくチャンスじゃないかなと。どこか借りて食育のコ
ーナーを設けて、包丁の使い方とか、お豆のつかみ方とか、こういう手を抜きな
がら栄養があるものを作るにはこうの方がよいとか、そんなことをやれば非
常に若い人へ伝えられるのかなと。この間学部長とも会ったのですけれども、そ
んな感じで、みつばちも出ていこうかと言う話もあって、色んな形で交流してい
こうと話も出ています。この機会を逃さず実施していくのもいいのかなと。4月
早々となってしまいますが。

(委員) 私、あまり参加ができなくて申し訳なかったのですが、盆マルシェの時に、お茶
がすごく美味しかったのが、すごくびっくりしました。家でもあの後、家族で水
だしの日本茶を作って飲むということをしていました。あそこにいた人たちも
みんな美味しい美味しいと言って、すごく反応が良かったように感じました。あ
の日は暑かったこともあって、それなりに影響があったのかもしれないと思
っています。ただ、食育という意味では屋外のイベントでは、食育の奥っていう
のでしょうか、ちゃんと伝えるっていう事はなかなか難しいだろうなというこ
とも感じました。そこをどうしていけばいいのかわからないのですが、例えば、
マルシェなので地元の野菜をたくさん扱っている、しかも美味しい野菜を意識
して作っている人達のイベントなので、そういう野菜を使って調理するブース
みたいなものがある、具体例を見せたりする、見せて試食も出来るなど、試食
まで難しいのかもしれませんが、そういう試みもできたりすると、いいのかもし
れないなと思いました。あんまり参加できずに申し訳ありませんでした。

(委員長) 本当にいいイベントの企画をいただいたので、想定よりもたくさん参加者がいま
した。お茶の試飲は3種類、深蒸しと、煎茶とほうじ茶でした。子どもはほうじ
茶が好き、年代が上がるにつれて、好みが変わっていくというのが、よくわかっ
て面白かったですね。私も、水だしがすごく美味しかったので、水だしできるボ
トルも買いました。また夏になったらやりたいなど。確かに盆マルシェでは野菜
を売っていたので、本当はそれも絡めてご案内できるようになるといいですね。
もちろん、他の出店者の方の傾向を見たうえでですが、先程委員からお話があり
ましたけど、区内大学の学園祭でも、学生さんだけでなく、近所の方や親子連
れもたくさんお見えになっていて、いい機会だなと感じます。今後、そういう工
夫もしていければなと思いました。ありがとうございました。

(事務局) 盆マルシェは、あまりの人だったものですから、たまたま見に来てくださって

た委員にもスタッフに加わっていただきました。申し訳ありませんでした。

(委員長) それでは続きまして、(2) イの食育応援店部会につきまして、資料2-2の説明をお願いいたします。

(事務局) (資料2-2の説明)

(委員長) それでは応援店の部会の委員の皆様にも一言ずつご意見とかご感想をいただければと思います。

(委員) 私は小学校にいますので、その角度から感想を。子どもを育てる大人や若い世代の親が手作りのものを食べない。親は朝も食べないで子どもを保育園に送り出して、夜はコンビニでお弁当買ってきてみたいな家庭が結構あるのかなと思っていて、この間食育の話をしていて、最近の子どもの好きな食べ物で、よくお寿司っていう子がいるのですが、私の世代には考えられないことなのですが、まさに回転寿司です。子どもにマグロの絵を描かせると、お寿司の握っているマグロですよね。マグロっていう魚が全然イメージされない。で、やっぱり魚の名前を言っても握り寿司でしか想像できない。アジの開きとでも、開いて泳いでいると思っている子もいたり。そういう時代にどうやって食に興味をもってもらうか、練馬区としてこうやって、色々な活動をしていただいているっていうことは、非常に子ども達にも大きな影響を及ぼしていると感じています。

(委員) 農業祭のイメージが、食育ネットワーク会議というのと、とても強いです。私たちも色々とブースも出しているのですが、ゆっくり拝見は出来ていないのですけども。農業祭は、アンパンマンショーをやるようになってから、小さいお子さんの来場がすごく多くなりました。ですが、子どもたちが遊べる、学べるブースっていうのが、正直少なく、そんな中で豆つかみゲームなどがあるとありがたい。JAとしても食育と農業の農ということで、食農という形で、いろんな事業をしております。農業祭の来場数は11万くらいで、ビデオカメラの方で計測すると、23万くらいということになっていて、カウントの仕方がはっきりはわからないのですけれども、アンパンマンショーや子ども向けのイベントで参加者も増やしていきたいですね。去年、ベビーステーションを設置してみたんですけども、お子さんや親の方が来やすいように、農業祭を有名にしていこうと思っておりますので、皆様のご協力をお願い出来ればと思っております。すみません、今日代理です。

(委員) 私、初めてこういう会に出席させていただいたのですが、まず、一番驚いたのは、店舗数がこの66店舗ですか、大変多い。多いだけではなくて、各応援店に非常に個性があって、バランスよくとれていて、練馬区の中にうまく分布している。一か所にこう集中、練馬なら練馬と集中しないで、分布しているという、それからお互いに商売的にバッティングしないようにしてあるという、そういう配慮が健康推進課の方にあつたのではないかと感じて、大変感激して、また、感

銘しております。つい最近なのですが、登録店の中の一店舗で、大泉学園にあるお店の店主が、大泉図書館で和食についての講演を無料で、有料じゃなくて無料で実施していました。このくらいの広さの教室でしたかね。やってみると、お子さん連れの若いママがたくさんいて、私も会議やっているものですから、参加させていただいたのです。でも、参加する方が多くて若い方がいっぱいに入っているのですよ。それで熱心に聞いていました。「一度食べに行きたい」とそんな話をしていました。応援店は練馬区で、これだけあるのですよと。一店舗ずつ挙げられなかったのですが、店舗があるのだから話もしておりました。そういう意味では応援店の方々も熱心に食育に参加しているのだなという感激をいたしました。もう一点はですね、このカタログですね、作成したカタログ、これがものすごくよくできている。わかりやすいのです。東京都が出しているやつ、いただきましたよね。あれはどうもわかりにくいのです。バラバラと区がなっていて。練馬区のはいいなと、非常にわかりやすい。だからそういう点では、皆様のご苦勞が、一年間やらせていただいて、ずいぶん出ていると感じます。あとPRをですね、是非、72万人くらい人口がある中で、PRしていただければ参加店もそれだけ売り上げが上がったり、知名度も上がるので良いのでは、という感想です。

(委員) 資料2-2のインセンティブのプレゼントですが、私今初めてこのプレゼント内容を確認しました。実施後の感想のところにも、もっと参加者がくると思っていたとあったのが、今初めてそうなのだと思って。このプレゼント内容ってどこかに掲載されていたのですか。

(事務局) プレゼント内容はアプリの方に記載をしていました。アプリのページを見ていただくとそこにプレゼントが掲載されているという形で記載していました。

(委員) やっぱりプレゼント内容がこういうふうにならなるとはっきりしていると、もっと人が、これなら行きたいなと思うかなとは思いました。また、いただいた情報誌はすごくわかりやすく、みんなに広めたいなと思って、練馬区に住んでいる色々な人に配ったのですが、それを見て、私の家の周りにはあんまり店舗がないのだなと。ちょっと広めてみる、みたいなことも言ってくれる人もいたので、そうやって配っていくことは大事なのかなと思いました。後は情報誌で、結構言われたのが、クーポン付いてないの？と。検討できるのならばしてもいいのかなと思いました。

(委員) 私は直接店の仕入れには関わっていないんですけども、国産のものを中心という形で仕入れをしているようです。応援店させていただいてますけれど、営業が夕方からという事もあり、どんな風に皆さんにアピールしていけばいいのかなと考えておりますが、なかなかゆっくり話す機会がなく難しい。また、先程からでているように、若いお母さんたちと、なかなか知り合うことが少ない。ある程度皆さんキャリアを積んだ段階の方が多いため、幼稚園児をもっているよ

うなそんなお母さん方と知り合う機会が少ない。皆さん食事について、どんなところで喋っているのだろうと。私自身も色々なところに参加して、触れ合っていきたいなと思っています。

(委員) 前期5期の時の全くのゼロの状況になったところから、ここまで形にできた。情報誌を手にしても、感動っていうか、ご苦労がすごく結集していいものが出来たのではないかなって思います。ねりまほっとラインとか、応援店を作っていくにあたって、色々とお店が使われまして、映像とかかなりPRに協力しました。そこからの反応は常にあって、見てくださった方がお客様としてこられて、喜んでくれるっていうこともありました。でも、ここからがまたスタートだということが大事で、さらに、進化して広がるような形でいくっていうのがベターかなって、個人的には思っています。4期8年、長かった、というような思いがあって、全部の事業がすべて進化している。歴代の職員の方みんな優秀な方が続いていて、ほんと素晴らしい。うまくやるじゃんという思い。ただ、僕が理想としているのは、もっと縦割りを壊していくというところなのですが、そんなことをばーんって言ったところで、みなさんが苦労することはわかっているので、応援店を拠点に、ちょっとずつそれが、ゆるやかに、広がっていけばいいかなというような思いがあります。この8年の間に、お店からここにくる間のお店・町の様子は、ほとんどお店が入れ替わったりとか、本当にサバイバルな状況であるっていうところもある。僕自身も、何ができるかって言ったら、自分で近くの店を使ってあげるとか、そういう地道な行動を常に意識しています。今日も農協の直売所で野菜を買って、今日はあんま野菜ねーな、とか思ったり、日によって当たりはずれがあり、数が限られているのですが、JAさんからも色々知識を得て、楽しい、美味しい毎日を区民としても送らせていただいて、とにかく感謝です。以上です。

(委員長) 皆様からの貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。この6期で色々ご検討いただいた内容、お話しした内容をふまえて、さらに練馬の食育を進めていければと思っています。それでは、3その他の、練馬の食育サミットについて、資料3の説明をお願いします。

(事務局) (資料3の説明)

(委員長) 「サミット」とついていますのは、今年の11月29日から12月1日にかけて、世界都市農業サミットというのを練馬区で行うということで、それと連動した企画という意味合いでも、こうして、他に繋げていければと思っていますので、こちらにつきまして本当にまだ、企画案の段階でございますので、何かご意見、ご提案があればと思いますがいかがでしょうか。

(委員) ちょっと質問していいですか。この一番下にJAと確認し、販売はないと。

(事務局) JAさんの方で応援店が販売しているものと同じものを売っていらっしゃいます

ので、応援店でも販売というと、難しい所があります。今回は周知だけという形でご協力がいただけるのかという事です。

(委員) よく、練馬の駅のところなどで、練馬 de 女子マルシェ、というのが販売しておりますよね、女子マルシェは結構、練馬区の中では分散して実施していますよね。白石農園が中心にやって、20 前後の農家さんなどが入ってるのですかね。それが良く練馬の駅とか大泉の駅で、西武線の沿線でやっていますよね。練馬区がその援助をしているようなのですよ。そういう所とも頼むって手もあるんじゃないですか。JA みたいな大きなところではなかなかできなくでも、女子マルシェでやるのだったら、やれるのじゃないかなって気がちょっとしたんで、やるやらないは別としても。ご存じだと思うのですが、なんか差支えなければ、そういうのも参加させてもいいのではないかなと。

(事務局) わかりました。ありがとうございます。

(委員長) 食育サミットを実施する場所でも JA さん販売されているのですよね。

(JA) そうですね。だしやお茶っぱですとか、色々販売しています。

(委員長) 同じ会場で同じ種類のものを売られているので、なかなか難しいですねという話だと思うんです。

(JA) 協議をしないといけないかな、と。

(委員) 料理をしていけば、販売まで皆さん目がいくかどうか、それはありますよね。

(委員長) そこで何か買いたいと思われたら、JA さんで買っていただくというのが、よろしいかなと。

(事務局) という流れにもっていければ良いのではと思っております。

(委員長) 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(委員) 前回の部会で来期に向けてという、部会でみんなで夢をかたりあって、こんなことできるといいね、こんなこともできるかもって言う中で、こうやって形になっていたの、すごいびっくりしています。さすが行動力が皆様早いとっていて、形にもうなっていますね。

(事務局) こんな形のイメージでよろしいのでしょうか。

(委員) もう、イメージ通りでございます。難しいかななんてちょっと及び腰だったものが、できそうなので、嬉しい。

(委員長) ちょっとサミットのようになるようにとっております。やはり、世界都市農業サミットとのコラボ企画というところで色々アピールできればいいなというふうには思っております。また、検討の過程でご意見頂戴できればなとっております。

(委員) ちょっと今思いついた事なのですが、サミットと関係はちょっとあるかないかわからないですが、農協さんで、ビール売っているじゃないですか。金子ゴールデンビール、あれ僕すごく好きで、農協行くと必ず買うのです。いつもストックしてあるのですが、自分はすごく美味しいと思っています。で、あのビールを

もっと普及して、男の人、おやじたちがもっと飲んで、そのビールが飲めるからお店に行くとか、このビールと合うつまみが自分で作るとかっていう事をパパ世代にアピールする材料になるのではないかなと思いました。だけどあのビールって、本当に農協の店舗でしか売ってなくて、どこでも飲めないのですよね。もっと広めてっていう意思がないのかもしれませんが、練馬が発祥だっているのですから、食育推進、ビールはちょっと食育と合うのかわからないですけど、結局、ビール飲みたくて、美味しいもの作ろうっていう事になっていくし、男の人を獲得するには、とってもしいのではないかと今思いました。どうなのでしょうね。もっと小麦を作るのも練馬の中で拡大して行って、美味しいビールと美味しい野菜で、作っていくといいなと。すみません。意見です。

(委員長) すごくいい視点のご提案だと思いますが、なかなかそれを広げるための課題というのが、色々あって今こういうふうになっているのだと思いますので、また JA さんともご相談しながら、進めさせていただければと思います。どうもありがとうございました。

(委員) はい。最後です。練コレのイベントがあって 100 部きて、こんなに配れないので、皆さんに。また、東京野菜の冊子もできたので、最新版、それを持ってこいっていったらあまりにも重すぎるので、またの機会にします。お店には置いてあります。もう一つ、桜マップですね、それはめちゃくちゃ反響がいいです。なので、アプリと一緒に使っていただければ、楽しく歩けるのでは？という想いで、こちらにお届けしました。区は一回作ったものを継続するので、その桜はマップの最後のところに店舗が掲載されているのですが、ちょっと変えて毎年届くというのは、内容があまり変わり映えしないので、例えば紅葉などいろいろな季節で作成したら、なんかちょっと進化して広がるっていうのではと思います。

(委員長) どうもありがとうございました。それでは本日の案件はこれで終了となります。皆様から何かご意見やお知らせ等何か他にありますでしょうか。

(委員) 実際に私共商品開発をやる時に、今つくづく感じているのは、人手不足です。非常に深刻になってきています。だから今、PR するっていうことでしたが、応援店の 66 店舗にしても、実際に行ってみたら、なんだこれしかないの、みたいな部分が出てきてるところもあるのでは。そうすると、金子ゴールデンビールの話がありましたけど、生産量がどれくらい出来ているのかとか、それから配達が、それじゃあ、需要に追いつくように出来るのだろうか。セブンイレブンさんのようにできれば良いのですが、全部それを配達するという事になったら、生産するだけで手いっぱい、っていう感じになる。それからこういうお店も、テレビ出た、と。行ってみる。待たされた。もう次から行かない。いう話になっていくので、連携をとって、ネットワークを作る場合は、かなり内容も臨機応変にしてやらないと、なかなか難しいのでは。今、マルシェは色々ある。JA 石神井を使っ

て、イベントをやるということになれば、敷地内ももっと使って、マルシェやってもいいと思うんですよ。拡大できるところは拡大する、無理をすることはやっぱり無理かなと。いうふうなことを見極めがものすごく大切になるような気がしています。

応援店でも、あそこは良くやっている、協力していただけるというふうな感じで、中身も充実していける店舗かという状況を見極めながらやっていかないといけないのでは。例えば、あそこもやっているからここもやってよ、というは勘弁してよ、みたいな話になるのだろうし、実力を見極めながら、拡大していくと、いうふうなこと、それから、拠点をどんどん増やしていくというのが、バランスをとっていかないと、なかなか難しいなと思っています。これは実感として。申し上げます。

(委員長) ありがとうございます。そういう部分もあると思いますし、さっき委員の方からもありましたけど、自宅の近くに無いてというのが、ちょっと寂しいなというお話もあって、そこをどういう形にしていったらよいかというのは悩みどころではあります。質と量とそのネットワークといいですかね、いろんな角度から考えていければなと思っています。それでは本当に6期の委員の皆様は2年間にわたりまして、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。皆様のお蔭で様々な形での食育を進めさせていただくことが出来たと思っています。ご多忙の中、会議への出席、それからイベントや講演会にご参加いただきまして、本当に感謝申し上げます。市内の幹事の皆様もこの会に参加していただいて、区民の皆様から、色々な食育に対するご意見も聞いていただいたと思います。先程縦割りをなくしてというふうなお話もありましたが、横の連携を強めて、食育を進めていければありがたいなと思っています。今後とも引き続き練馬の食育にお力添えをいただけますようお願い申し上げます。本日の会議を閉じさせていただきます。本当にありがとうございました。